

海蔵あくら



四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和5年9月22日
第5号
文責 校長 柳川 洋史

全国学力学習状況調査、みえスタディチェックの結果から

6年生対象に国語、算数、の2教科と児童質問紙による「全国学力・学習状況調査」が、5年生対象に国語、算数、理科の3教科、4年生対象に国語、算数の2教科による「みえスタディチェック」が実施されました。該当学年の皆さんには、個人の結果を家庭学習などに活かしてほしいと思っています。

学校としましては、この結果を分析して「強み」や「弱み」などを把握し、全職員共通理解のもとで授業改善に取り組むとともに、児童の学習や生活の指導に活かしていきます。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

◎調査の目的

・「全国学力・学習状況調査」

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策や教育指導等の改善に活かすことを主な目的として6年生対象に調査を行っています。

・「みえスタディチェック」

三重県では独自の教育施策として、学習指導要領を踏まえ、知識、技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力の定着状況を確認することを目的として4年生5年生で実施しています。

◎本校の学力の状況【強み：○、弱み：△、改善に向けて：★】

I 国語科

○6年

- ・問題全体の正答率、およびすべての設問において、昨年度のみえスタディチェック結果から改善され、全国および県平均値を上回りました。

△6年

- ・文章だけでなく図やグラフを用いて、自分の考えが伝わるような書き方を工夫する問題の正答率がやや低い傾向が見られました。



- ★強みにあるように、自分の考えをまとめることはできていますが、資料やグラフを使ったり、分かりやすいように工夫したりすることが苦手だと分析できます。「文章

全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える力」「文の中の主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係を捉える力」がやや弱いという傾向が結果に表れてきました。説明文を論理的に読み取る学習等を通し、改善につなげていきます。

○4・5年

(4・5年) 正答率は市平均を上回っています。

(4・5年) 各学年の新出漢字、主語と述語の関係をとらえる問題で市の正答率を上回りました。

(5年) 修飾と被修飾の関係をとらえる問題、登場人物の気持ちの変化を読む問題において、市の正答率を上回りました。

△4・5年

(4年) 段落相互関係に着目して文章構造を把握する問題の正答率が、市の平均をやや下回りました。

(5年) 接続語を使って内容を分類する問題に、正答率が低い傾向が見られました。

★2つの文章を、接続詞を用いて、1文にする問題の正答率が低いことなどから、文章の読み取りは概ねできていますが、文章の要約が苦手であると考えられます。また、記述問題で条件を満たしていない解答が多く見られました。このことから、文章を論理的に読み取り、要点を相手にわかりやすく伝えたり、まとめたりする学習機会を重ねていきます。

Ⅱ 算数科

○6年

・問題全体の正答率は、平均値をやや上回りました。

・筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商を立てる式を選ぶ問題、2次元の表から条件に合う数を選ぶ問題で、全国平均を大きく上回りました。

△6年。

・百分率の割合に対する理解を問う問題、全部のイスを求めるために 50×40 の計算をする問題において、正答率の全国平均をやや下回りました。

・割合問題、三角形の面積の大小についての問題において、全国的にも本校でも正答率が低い結果が出ました。

「図形」領域について、昨年度平均値を下回っていたところが、改善されました。

★各領域別の正答率は、多くの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」それぞれ概ね同水準の結果になりました。その中で、授業でさらに理解度を深めなければならない結果となった「測定領域の割合」「図形領域の三角形の面積の特徴」について、指導方法改善に向けた教材研究を行っていきます。また、同

時に「条件に合わせて論理的に解法を説明する力」を高められるよう、授業内容を今後も工夫していきます。

○4・5年

（4・5年）正答率は市平均を上回りました。

（4年）分数の理解の問題、二等辺三角形の定義や性質に関する問題、データ活用問題が、市の正答率を大きく上回りました。

（5年）四捨五入の問題、グラフの単位に注目して読み取る問題が市の正答率を大きく上回りました。

△4・5年

（4年）整数の除法の意味について問う問題、時間を求める問題が市の正答率を下回りました。

（5年）分数の意味を問う問題、面積の求め方を説明する記述問題が市の正答率を下回りました。

★図形の面積の問題では自分の考え方でなら面積を求めることはできています。しかし、今回の問題は、式からどのように相手が考えたかを読み取って記述する問題であったため、言葉足らずだったり、勝手に自分の考えを入れてしまったりしたため、正答率が下がる傾向が見られました。また、単純な計算はできるのですが、除法や分数などの意味を問う問題の正答率が低く出ています。これは「単位当たりの量」への理解が十分ではないことから生じるものだと考えられます。より理解度を深められるよう教材研究、指導方法改善を図っていきます。

Ⅲ 理科

○5年

- ・問題全体の正答率は、平均値を上回りました。
- ・方位磁針の適切な操作方法の問題、提示された情報を分析し自分の考えを持つ問題、水が水蒸気になって空気中に含まれている知識を問う問題が市の正答率を大きく上回りました。



△5年

- ・気温のデータ分析の問題、気温の適切な測定方法の問題、回路や乾電池の数での電流の変化の問題が市の正答率をやや下回りました。

★子どもが実験できる単元の正答率が高かったです。逆に、児童主体の実験が行いにくい単元の正答率が低い傾向が見られました。季節や気候の単元は実験などが少なく、子どもの関心・興味が引くことができなかったと考えられます。ICT 機器を活用し、映像、画像等を有効活用するなど、教材研究、指導方法改善に努めていきます。

す。

Ⅳ 今後の重点的な取組

- ★今後も「目的や意図に応じて書くこと」などの言語活動を積極的に学習活動に取り入れ、継続した指導の改善を進めます。
- ★発展的な問題や実生活と結びついた課題を積極的に取り入れていくことで活用する力の育成に努めます。
- ★学習内容に応じ、適切な場面でタブレットを活用したり具体物を使ったりすることで児童が具体的なイメージを持って問題解決に向かえる手立てをとり、知識・技能の定着を図ります。
- ★授業の中に、ペア学習、グループ学習などの協働的な学びを位置づけることで自らの考えを広げたり深めたりすることを促し、論理的な思考力や表現力の育成に努めます。

◎本校の学習・生活の状況から（児童質問紙から見られる特徴）

○肯定的回答が全国平均を大きく上回った質問

- 「自分の意見と違う意見について考えるのが楽しいですか」
- 「自分にはよいところがあると思いますか」
- 「あなたの学級では、学級生活をよくするために学級会で話し合い、互いの意見を活かして解決法をみつけていますか」
- 「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」



△肯定的回答が全国平均を下回った質問

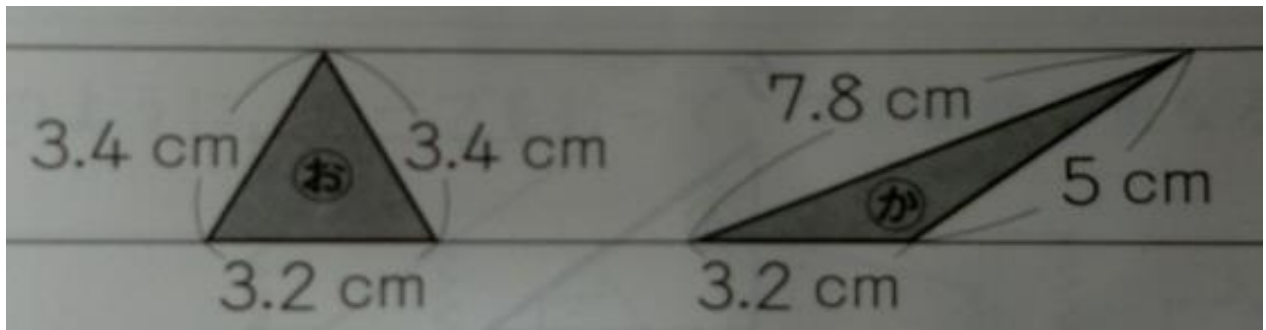
- 「夢や目標を持っていますか」
- 「土日など学校が休みの日、一日当たりの勉強時間」

- ★授業の中で、話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができていると感じている児童が全国平均を上回っています。今後も、グループ学習や話し合い活動を授業に取り入れ、友だちとともに学び合う授業づくりに努めます。
- ★授業や勉強に対する意欲は高くアンケート結果が出ていますが、予習や復習、自主学習をする習慣には必ずしもつながっていません。宿題の質や量を考えるとともに、意欲や学習状況に応じて自主的に学習ができるよう指導と支援を続けていきます。ご家庭でも「家庭学習の手引き」を参考に、予習や復習、自主学習などを進んで行うよう、働きかけや助言をお願いします。

V 児童の解答から、弱みを感じられた設問

一例として、6年生算数で正答率が低かった設問を取りあげます。

えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような（お）と（か）の2つの三角形をつくれます。（お）と（か）の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。



- 1 （お）の面積の方が大きい
- 2 （か）の面積の方が大きい
- 3 （お）と（か）の面積は等しい
- 4 （お）と（か）の面積は、このままでは比べることができない

正解は、「3」となります。説明の正答例は、

三角形の面積は、「底辺×高さ÷2」で求めることができる。

（お）と（か）の底辺は、どちらも3.2 cmなので等しい。

（お）と（か）の高さは、テープの幅が、どこも同じ長さなので等しい。

だから、（お）と（か）の面積は等しい。

三角形の面積は、「底辺×高さ÷2」で求めることを前提にして、底辺と高さが同じであることを、記述することが求められています。公式を書くだけではなく、根拠をわかりやすく解説する力が試された問題でした。

全国的にも正答率が約20%と、算数の問題の中で最も低い結果になりました。

日常生活に、つながる「割合」問題も、正答率が低くなりました。

30%について考えます。

割合が、30%にまるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

ア	100人をもとにした0.3人の割合
イ	100人をもとにした3人の割合
ウ	100人をもとにした30人の割合
エ	10人をもとにした3人の割合
オ	30人をもとにした1人の割合

正解は「ウ」と「エ」です。正答率は、約42%でした。

「もとにする量」、「比べられる量」、「割合」の意味、関係を、具体的なイメージで理解できるよう、授業改善行っていきます。

答えを導き出すときに、どのような手順で進めるのか、その手順一つひとつがどのような意味でつながりあっているのか。論理的に説明したり、記述したりする機会を、授業の中で意識的に取り上げていくことが必要であると、教員間で分析しました。算数だけでなく、物事を説明しなければならない場面は、他の教科でも、日常生活にもたくさんあります。

社会人となったときに、自分の考えをわかりやすくプレゼンテーションする力は重要視されるものの一つではないでしょうか。

段階を踏んで、子どもたちがその力を育めるように、授業改善を進めていきます。

